

## キリスト教系病院等にいるチャプレン chaplain とは

チャプレンとは、

医療行為や宗教勧誘を行わず、患者・家族・職員の「心と霊のケア」を担う専門職です。

本来、チャプレン（病院、学校などの宗教施設外で活動する聖職者）になるには、臨床牧会教育（CPE: Clinical Pastoral Education）と呼ばれる、実習とグループワークを重視したプログラムを修了する必要があります。併せて、スピリチュアルケア、カウンセリング、倫理、悲嘆ケア（グリーフケア）などの専門知識に加え、宗教的背景に基づく対話能力が求められる、非常に重要な専門職です。

### ▶資格・背景

日本では国家資格ではありませんが、一般に以下のような背景を持つ人が務めます。

- ・聖職者：牧師・神父など
- ・神学教育を受けた専門職（神学校や神学部卒業者など）
- ・**臨床牧会教育**（CPE：Clinical Pastoral Education）修了者（日本では少ない）。▶**重要**

### ▶病院内での立場

- ・チャプレンは医療スタッフではないが、医療チームの一員という立場です。▶**重要**
- ・医師・看護師・MSW（医療ソーシャルワーカー）と連携▶**重要**
- ・診断・治療・判断には関与しない▶**注意**
- ・守秘義務を負い、患者のプライバシーを尊重▶**注意**  
※宗教職 × 専門ケア職という、独特の中立的ポジションです。  
※洗礼を受けている患者にしか関われないわけではありません。

### ▶業務内容

1. 患者・家族へのケア▶**重要**
  - ・病気や死への不安、孤独、怒り、喪失感に寄り添う
  - ・「なぜ自分が」「生きる意味が分からない」といった問いを否定せず傾聴
  - ・希望があれば祈り・聖書朗読・祝祷
2. 宗教的配慮▶**重要**
  - ・他宗教・無宗教の人にも対応（押し付けは**厳禁**）▶**注意**
3. 医療スタッフへのケア
  - ・燃え尽き・葛藤・倫理的ジレンマへの相談
  - ・グリーフケア（患者死亡後の職員ケア等）

### ▶「伝道者」ではない点が重要

- ・病院チャプレンは、
  - × 伝道・勧誘をしない▶**注意**
  - × 信仰告白を迫らない▶**注意**
  - × 改宗を目的としない▶**注意**
- むしろ、「どの信仰の人にも、信仰を持たない人にも仕える」ことが原則です。▶**重要**

### ▶キリスト教系病院にチャプレンが置かれる理由

- ・人間を「身体・心・霊」の統合体として理解するキリスト教的人間観
- ・イエス・キリストの癒やしの働きに基づく「全人的医療」
- ・治らない病・死に直面する場での希望と尊厳の保持 等